

## 第4回 練馬区教育振興基本計画懇談会要点記録

- 日 時 平成 23 年 11 月 25 日 ( 金 ) 18 : 30 ~ 20 : 30
- 場 所 本庁舎 19 階 1903 会議室
- 出席者 廣嶋座長、小林副座長、石橋委員、眞瀬委員、高井委員、玉井委員、  
伊藤委員、斉藤委員、佐藤委員、長井委員、真島委員、宮崎委員
- 欠席者 風間委員、渡邊委員、木下川委員、田中委員、
- (事務局) 学校教育部長、新しい学校づくり担当課長、学務課長、教育指導課長、  
総合教育センター所長、統括指導主事、施設給食課長、庶務課長、  
庶務課庶務係職員 2 名、ジャパン総研 2 名

### 案 件

- (1) 練馬区教育振興基本計画に係るアンケート調査の結果等について
- (2) 基本的な視点について
- (3) 今後 10 年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿について
- (4) 重点施策について
- (5) その他

### 配布資料

- (1) 練馬区教育振興基本計画に係るアンケート調査の結果について・・・資料 1
- (2) 練馬区教育振興基本計画に係る教職員ヒアリングの主要意見・・・資料 2
- (3) 練馬区教育振興基本計画 基本理念、基本的な視点等の体系図・・・資料 3
- (4) 基本的な視点(案)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 4

---

## 1. 開会

### 【座長】

ただ今より、第4回練馬区教育振興基本計画懇談会を開会します。

本日は、前回の会議で頂いた意見を踏まえて作成した、基本的な視点(案)の検討を中心に進めたいと思っています。

## 2. 議事

- (1) 練馬区教育振興基本計画に係るアンケート調査の結果等について  
事務局より、資料 1、資料 2 に沿って説明

【座長】

今、説明された内容については、後の検討の中で、必要があるものについて触れていく形にしたいと考えています。ご質問、ご意見等はその際に頂ければと思います。

## (2) 基本的な視点について

事務局より、資料3、資料4に沿って説明

【座長】

資料3の「基本的な視点」の部分の詳細が資料4となります。検討の進め方としては、資料4の基本的な視点について、1から順にご意見を頂きたいと思います。

まず、「基本的な視点1：教育の質の向上」について、ご意見等はありませんか。

【委員】

について、「子供が、社会の激しい変化の中で、社会人・職業人として自立していくことができるようにするため」とありますが、小中学生の段階での職場体験活動やボランティア活動というのは、自立のためというより、実際にどういう仕事があるかを知って、それを自分たちの勉強に生かすというようなことが目的だと思いますので、表現に違和感を覚えます。

【座長】

「社会人・職業人として自立していくことができるようにするため」の前に、「将来」という言葉を入れるといいのではないのでしょうか。

今、自分の将来について、夢とかしっかりした考えを持ってないまま大人になっていく子供たちが多いことから、キャリア教育というものが重視され始め、学校現場では非常に熱心に取り組まれていると感じます。その1つが職業体験等なのだと思いますが、確かに、ご指摘のとおり、この書き方では、中学生がすぐ社会人になるような印象で違和感があるように思います。

【教育指導課長】

今、無目的に生活していくということが大きな問題になっており、働くことの意義を考えたり、望ましい勤労観、職業観を身に付けさせるための教育が強く求められています。そのような状況を受け、練馬区では、子供たちが将来、社会人・職業人として自立できるよう、キャリア教育の研修会を設けるとか、小学校から中学校までの9年間にわたっての義務教育段階で、そのような力を身に付けさせるべく、職業体験、ボランティア体験等に力を入れて取り組んでおります。ここはそういう意味で書かれているのだと思います。

【座長】

「将来」という言葉を補足すればいいと思います。

【委員】

国の教育振興基本計画における今後 10 年間を通して目指すべき教育の姿の中でも、義務教育終了までに、全ての子供に対し自立して社会で生きていく基礎を育てることが、1 番に挙げられています。自立できるというのは大変大きな目標なので、倫理観、基本的な生活習慣、人を思いやる気持ちなど、全部含めて育てていくべきものであり、職場体験やキャリア教育だけでそれを実現するのは難しいと思います。

【座長】

ご指摘のとおり、国が出しているのは自立そのものではなく、自立の基礎と言っています。そこをどう表現するかが難しいところだと思います。

【委員】

キャリア教育に関しては、中学や高校で父親たちが自分の仕事や職場の話をするという授業に参加したことがあるのですが、子供たちはまだ全然実感もないような様子で、形骸化した取組のような印象を受けました。単に行事としてやるのではなく、もう少し本質的なところをとらえたキャリア教育をしなければ、子供たちの中には浸透しないのではないかと思います。

【座長】

それでは、どうしたらいいと考えられますか。ここの基本的な視点では、今、成果が上がっていることではなく、それを推進するということが大事なので、今回および次回には、課題ではなく、その改善策のほうを多く出していただきたいと思います。

【委員】

については、「将来」を加えれば、あとはこの形でいいのではないかと思います。今までの学校教育は、具体的に社会に生きるという部分の教育がやや薄かったので、心の教育などをやりつつ、机上の勉強だけではなく、職場体験などを通して社会の仕組みや働くことの意義を考えることで、勤労することや、社会に出て働くことの大切さを体得させたいということ、うたっていく必要があると思います。

【座長】

はそういう意味で書かれているのだと思います。

【委員】

「社会人・職業人として自立していくことができるようにするため」というのはものすごく大きなテーマであり、～もそこにつながるのではないかと思います。そうすると、そのテーマを1つの大きな視点として、その中に～を置くような書き方にしてはどうでしょうか。

【座長】

確かに、キャリア教育というのは職場体験等だけではなく、全ての教育活動を通して行うべきですし、自立の基礎というのは心の問題も含めて全て入るので、とても大きなテーマです。

【委員】

教育の基本は、子供が自立して生活できるようにすることなので、私も、この部分を大きな表題のような形で出してもいいのではないかと思います。

【座長】

この部分が大事だという認識は皆さんで一致しておられますので、表現を検討して、次回、再提案させていただきたいと思います。

【副座長】

他の視点との整合性も考える必要がありますので、最終段階で総合的に検討したいと思います。

【委員】

、は教員に関する内容になっているので、そこと大きく2つに分ければいいのではないのでしょうか。

【委員】

については、本当にここに書いてあるとおりだと思います。

【委員】

に限らず、資料4は全体的にあまり特色がなく、これまでも行ってきた取組なので、資料3の「地域特性を生かした教育」のような、練馬区の特長を強く出すような内容にしたほうがいいのではないかと感じます。例えば、農業や緑が多いということを食べ育と結び付ければ、食育が家族のだんらんや、ひいては家庭教育にもつながっていくのではないかと思いますし、また、JAと協力している区は都内にはないので、そういう

ところとも協力するなど、新たなダイナミックな提言を書いてもいいのではないでしょうか。

**【座長】**

私も、今回までの皆さんのご意見を聞いていて、区の教育目標をそのまま落としてくるのではなく、資料3の「今後10年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿」の地域特性と絡めて方向性をつくらなければならないのではないかと感じていました。地域の特色を入れるにあたっては、ここの基本的な視点の表現自体を変えることは難しいと思いますので、重点施策の中で入れてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

**【委員】**

そういう形でもいいと思います。ただし、総花的な書き方ではなく、具体的に絞り込んだ書き方にしていきたいと思っています。

**【委員】**

資料2の教職員の多忙化の中に、「教育の全体的な方向が見えない」とありますが、教員が目的を持たずに仕事をしているような印象を受け、非常に残念に思いました。

教育の質の向上については、教員の企画力、運営力、授業の進め方等の能力と、どういう視点を持って教育をしているかということが重要だと思います。教員の研修については、東京都もキャリアに応じて実施するということを明言していますので、それを充実していくということでもいいと考えます。そのため、議論のポイントとしては、～を具体的にどうしていくのかということだと思います。

**【座長】**

その具体的な部分については、重点施策のところで意見を頂きたいと考えています。この基本的な視点というのは、重点施策を考える上での方向性を示すものです。まず、方向性として、こういう視点でいいかどうかについてご意見を頂きたいのです。

先ほど、どこにでもあるような一般的な中身になっているというご意見がありました。質の向上の内容としては、こういう形にならざるを得ないのではないかと考えています。区独自のものについては、具体的な施策の中で出したほうがいいのではないかと考えています。

基本的な視点1については、いったんここで切って、視点2および3に進み、その後でもう一回、視点1に戻りたいと思います。

「基本的な視点2：家庭や地域と連携した教育の実現」について、ご意見等はありませんか。

**【委員】**

『五体不満足』の著者である乙武洋匡さんが、今、練馬区の保育園か幼稚園での活動に携わっているという話を聞いています。乙武さんが杉並区で教員をされた経験から、家庭教育が大切だということで、始められたと聞いていますが、そのような具体的な人物を取り上げて、施策を組むことは難しいのでしょうか。そういうことができれば、区民の共感も得やすいのではないかと思います。

**【座長】**

具体的には、杉並区のように、学校で教員をしてもらうようなイメージですか。

**【委員】**

そうではなく、保護者を対象にした勉強会のようなものを立ち上げてはどうかと考えています。保育所でそのような活動をやっておられるようですし、彼自身も、今、お子さんを育てておられるので、小学校よりも下の子供たちに関する内容を中心にして、ある種のコーディネーターのような形で彼を起用してはどうでしょうか。練馬区にとっては非常に貴重な人材だと思うので、様々な場面で活躍していただければと思っています。

**【座長】**

個性的な人材の活用というような形であれば書くことができると思いますが、特定の個人名を出すことは難しいのではないのでしょうか。

**【庶務課長】**

出せないと思います。

**【座長】**

地域の様々な人材をより一層活用するという方向は、この中に込めているつもりなので、その先の具体的なところで、どこまで書けるかという問題だと思います。

**【委員】**

そこまで具体的に書かずに、大きく書いてもいいと思います。

**【委員】**

基本的な視点2については、、 など、視点1に比べると具体的で、新たな視点もあり、これで良いのではないかと思います。

【座長】

視点2については、具体的なものがいくつか入っていますので、逆に、重点施策が書きにくいかもしれません。

【委員】

子ども家庭支援センターは、今、どういう形で地域に置かれているのですか。

【庶務課長】

子ども家庭支援センターは区内に5カ所あり、それぞれの地域を担当して、地域の施設や東京都の施設とつなぐとか、虐待等に関する連絡会をつくって情報交換をするなどの活動をしています。

【委員】

私の学校では、子ども家庭支援センターを毎日のように活用しています。とてもいいシステムだと思いますので、充実を強く望みます。

【座長】

重点施策の中に入れるということでもいいですか。

【庶務課長】

来年度、組織改正を予定しており、子供関連施策については教育委員会の中でやっていくことになっています。子ども家庭支援センターについても、教育委員会の中に入る形になりますので、かなり連携体制が整うのではないかと考えています。

【委員】

子ども家庭支援センターの対象年齢はいくつですか。

【委員】

0歳から18歳です。

【委員】

相当広いんですね。

【委員】

の「子育てに関する親の学びや話し合いの場」について、子供が生まれる前の段階から、こういう場と関わりを持つことができるといいのではないかと思うので、その

ような趣旨が分かるような書き方にしてはどうでしょうか。

【座長】

妊娠時のみならず、独身の方も含まれるということが分かるような表記にしてはどうかというご意見だと思います。

【委員】

出産前の方への支援については、光が丘でこれから始めようとしているところです。妊娠届けを提出された際にアンケートを取って、支援が必要と判断される方については、保健相談所と主任児童員とで、支援の手を差し伸べるという活動なのですが、これが練馬区全体の活動に結び付いていけばと考えています。

【座長】

その活動については、の具体的な施策として入れられると思います。妊娠の前の段階の人についても、こういうものを利用できるという表現にすることについては、どう考えられますか。

【委員】

実際には、妊娠しないと子育てに興味を持たれない場合がほとんどなので、まずは、その段階から支援していきたいと思っています。

【座長】

今の表現でも、独身の方を排除する表現にはなっていないので、このままでいいようにも思います。

【委員】

具体的なところはこれから検討していくことになると思いますので、ここの文言についてはこれでいいと思います。

【座長】

「基本的な視点3：家庭や地域と連携した教育の実現」についてはいかがでしょうか。

【委員】

はとても大切なことだと思います。学校の防災拠点としての機能の強化にとどまらず、地域の消防団や町会、避難拠点連絡会等との連携ということも入れるといいのではないかと思います。



【座長】

学校内だけではなく、学校、地域との連携という意味合いの防災教育ということですか。

【委員】

そうです。

【委員】

に「ICT活用」という言葉がありますが、一般の市民には分かりにくいのではないのでしょうか。

【庶務課長】

なじみの薄い言葉については、注釈を付けて分かるようにしたいと思っています。

【新しい学校づくり担当課長】

ICTとは情報通信技術のことなのですが、現在では、一般的にICTという言い方のほうが浸透しているようですので、注釈を入れる形で対応したいと思います。

【委員】

ICT活用に関しては、ICTを取り入れるだけではなく、それをみんなで実際に活用できなければ意味がないので、どのような形で活用できるようにするのかということも、並行して考えていく必要があると思います。

【座長】

具体的な方法については、重点施策の中に入れていくことになると思います。

基本的な視点3について、ほかにご意見はありませんか。

なければ、視点1に戻りたいと思います。 、 についてはおおむねこれで良く、

は少し表現を変えろということでしたが、ほかにご意見等はありませんか。挙がっている項目については、これだけでいいですか。

【委員】

視点1だけではなく全部の視点について、練馬区として強調したいものから順番に並べるといいのではないかと思います。

【座長】

一応、そのような順番で書かれていると思います。

【委員】

例えば、先ほどから が一番重要という意見が出ていますので、そういう項目を一番目に持ってきたほうがいいのではないかと思います。

【座長】

今の話は、既に（３）の「10年を通じて目指すべき練馬区の姿について」の部分にも入っているので、（３）に移りたいと思います。

### （３）今後10年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿について

【庶務課長】

今後10年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿については、懇談会として、いくつかの候補を挙げていただければと思っています。それを踏まえ教育委員会で決めていきます。

【座長】

この6つの案のうち特に強調したいものとか、これ以外の別の案等があれば、ご意見を是非頂きたいと思います。この案を一つに絞るのではなく二つぐらいにすればよいでしょうか。これまで地域のことが随分出てきましたが、郷土に対する理解や思いのないところに教育は成り立たないと思います。

【委員】

と は似ているので、1つにまとめてもいいのではないのでしょうか。その中に 、 が入ると思います。そして、それが の学校ごとの特色のある教育に結び付いていくのではないかと思います。

【座長】

練馬区の地域の特性とは何かと問われたときには、どのように答えればいいのでしょうか。

【委員】

練馬区は広いので、地域によって違った特性があると思います。

【座長】

教育における地域の意味というのは非常に大きいと思っているので、この項目自体はいいと思うのですが、地域の教育力を活かすという表現であれば抽象的な表現なので問題ないが、地域の特性と書くからには、説明できるようにしておく必要があると思います。練馬らしさというのは何でしょうか。

【委員】

極端に都心でもなく、また、極端に田舎でもないという点ではないでしょうか。

【委員】

23区で一番のものとして、農地の割合や緑被率の高さ、小学校の校庭の広さが挙げられると思います。また、地域福祉の充実ということも特長的だと思います。

【座長】

具体的にはそういうものが特長で、それを大事にしていくということでしょうか。

【委員】

それは練馬区の基本構想にもはっきりと載っていますので、入れていく必要があると思います。

【委員】

私は生まれてから高校までを練馬区で過ごしたのですが、練馬区の良さというのは、ほかの区にはない田舎感とか、飾り気のないところではないかと感じています。そういうところを大切にしていければと思っています。

【座長】

田舎感というのは、ほっとするとか、居心地がいいという感じなのではないでしょうか。

【委員】

気取らないとか、飾らないというイメージだと思います。

【座長】

練馬の特長についてはだいぶ理解できてきたので、是非それをどこかに入れたいですね。

【委員】

私は他区から異動してきたのですが、練馬区は温かいと思います。それと交通の便

もよいという点も特長だと思います。

【座長】

そういう環境の中で人間関係をはぐくんで、10年後もそのような良いところをずっと残しておきたいという方向性でしょうか。

【委員】

練馬区では、給食費やPTA会費の未納入という話もほとんど聞きません。

【委員】

その点については、練馬区は人口が多く、地域によって生活の格差があるので、一概に言えない部分もあると思います。

【委員】

新しく練馬区に入ってきた方たちが子育てをしている場合が多いので、そのような方たちに練馬区の良さをアピールしていくことが大切だと思います。

【委員】

私もそう思います。間口を広くして、受入れを歓迎するような所でありたいと思っています。

【委員】

練馬区は、父親学級、両親学級をいち早く立ち上げました。そのような、若い家族にやさしい区であるということをアピールすべきだと思います。

【座長】

(3)については、10年先にとどまらず、もっと先まで大事に残していきたい練馬区の姿というものを表現するということによろしいでしょうか。どのような表現にするかは、検討したいと思います。

#### (4) 重点施策について

【座長】

重点施策については、順番に関係なくご意見を頂きたいと思います。

【委員】

視点の2に関する重点施策については、先ほども言いましたが、子ども家庭支援セ

ンターをもっと強く核にしていきたいと思っています。現状では子ども家庭支センターの職員の資質の個人差が大きいため、職員の教育も必要だと思います。人員も増やす必要があると思います。また、虐待をする親に対して、杉並区では、子ども家庭支援センターで虐待の家庭まで入ったり、警察の少年課との連携も強かったです。練馬区においても、子ども家庭支援センターがもっと積極的に支援をする形にしていればと考えています。

子ども家庭支援センターには、学校では介入しにくい家庭に訪問をしていただいたりしていますが、学校というと拒否する方でも、子ども家庭支援センターであれば受け入れられるというケースも少なくありません。生活保護等の関係から、家庭の事情を隠そうとする人でも同様のことが言えます。このように、センターは学校と家庭と行政をつなぐ役割も担っているため、民生委員や青少年委員等との連携もさらに深めて、その機能を充実させていってほしいと思っています。

#### 【委員】

私も、そこを核にして充実することが一番大事だと思います。私どもの園もお世話になっていますが、子ども家庭支援センターの担当者が一人で抱えている案件が非常に多いので、人員体制等も含め、是非充実させていきたいと思っています。

#### 【委員】

私も全く同意見です。子ども家庭支援センターは5カ所あり、それぞれの職員は力も付けてきていただいていますし、ネットワークもうまくできつつあります。しかし、虐待を扱っているところは現在は2カ所だけなので、それを増やして全ての子ども家庭支援センターで虐待対応ができるようにしていきたいと思っています。また、虐待、不登校、非行等の問題がますます増えている中で、人員が足りていないと感じます。主任児童員自体も人数が不足しています。そのため一人で抱えている案件が非常に多いという状態も、改善していただきたいと思っています。

また、障害を持ったお子さんや、その保護者への対応の仕方についての、学校の先生への研修にも力を入れていただきたいと思っています。その児童の状態をしっかりと踏まえて、その子に合った指導をできるようにしていただけるとありがたいと思います。

#### 【委員】

視点2の「地域コーディネーターの配置」とありますが、いろいろな行事においてコーディネーターが必要だと感じています。今、練馬区には町会・自治会が260団体ありますが、行政の下請け的な業務が多くて、それ以外はほとんどが親睦のような活動となっています。これからの地域社会は新しい共同体を作らなければ駄目だと言われていますが、新しい共同体をつくるにはコーディネーターが必要です。そこで、社

協、まちづくりセンター、みどりの機構などの外郭団体が、今後、コーディネーターの役割を担っていかねばならないと思います。また、NPOもコーディネーター役にふさわしいのではないかと考えています。

**【座長】**

ここについては、先ほどの乙武さんのような練馬ならではの人材の活用と、それに加えて、様々な団体もコーディネーターとして活用できるようにするという考え方でよろしいでしょうか。

**【委員】**

それでいいと思います。

**【委員】**

学校に対する要求がものすごく多かったように思います。この資料にも、本来は家庭の中でやるべきではないかということまで盛り込まれており、そこまで学校に要求するのは少し違うと感じています。

そこで、地域の活用ということが、つぎの課題になると考えます。今後、さらに不況になれば、若い人たちの年収も減っていき、ぎりぎりの状態で子育てをしていかなければならないという人が増えてくると考えられます。そうすると、そういう人たちに対しての様々な支援も不可欠になってくると考えます。そうなったときに、地域のいろいろな人材を活用して網の目を張り巡らせていく、同時に支援のための団体もつくるなど、練馬区独自の活用資源を準備して、それを一覧表にさせていただくと、非常に有用だと思います。基本的な視点等では決まり文句を使っている、内容が練馬区独自のものであれば、それでいいと思いますし、学校の負担も軽減されると思います。地域の活用がうまく実現すれば、とても希望が持てるような気がしています。

**【委員】**

アンケート結果の28ページなどを見ると、家庭教育はしっかりやっているという回答が多い反面、子供に対する教育の方法や心構えを学ぶ機会の要望も結構多いです。しかしながら、講演会等を企画しても、時間がなくてなかなか参加できないというのが実情だと思います。保護者会の後に講師を呼んで話を聞く出張講座など、参加しやすい親の学びの場をつくるといいのではないかと思います。

**【委員】**

大きな会場で行う講演会のような形ではなく、例えば、父親学級や両親学級で、一足先に出産をした方が、経験談やおむつの付け方を話したりしていますが、そのよう

な身近な勉強会のようなものを言われているのだと思います。今、PTAの教養部は形骸化してしまっているのです、そのような実用的な講座をどんどん取り入れるべきだと思います。

**【座長】**

必要なところに適切な人を派遣していくということは、人材の活用の1つの形態になるのではないかと思います。

**【委員】**

アンケート結果の13ページでは、学校の活動に参加したいと思わない理由として、2番目に「人間関係がわずらわしい」が多く、15ページでは、子供が通っている学校や学校施設に望むこととして、「子供の学校での様子を保護者に伝える」が最多となっています。このような、自分や我が子のことしか考えないような、親の利己的な意識を変えていかなければならないと思います。親がこういう状態であるにもかかわらず、子供にはコミュニケーション能力を付けさせたいというのは非常に矛盾しています。教育振興基本計画の中に、親の教育についても入れる必要があるのではないかとさえ感じます。

**【座長】**

親の教育を入れるとすると、家庭と地域の連携が、家庭の教育力のところでしょうか。家庭の教育力というのは、言うのは簡単ですが、実際にはとても難しいことだと思います。何かいい施策の提案はございませんか。

**【委員】**

今の小中学生のお母さん方は、高度成長時代に何不自由なく育ており、民主主義というものを履き違えて、利己主義、個人主義に陥っている場合もあると思います。そのような人たちが、年齢を重ねていったら大変なことになるのではないかと危惧しています。

**【座長】**

課題であるということは分かりますが、解決策となると非常に難題だと思います。何かいい案があれば、次回でも結構ですのでお聞かせ願えればと思います。

**【委員】**

仕事をリタイアしている団塊の世代の方たちにとっては、今の子育て世代の親は自分の子供くらいの年代だと思うので、今の保護者たちの指導や支援をしてもらうとい

いいのではないかと思います。また、それまでの経験を生かして、子供たちの基礎学力の向上にも貢献できるのではないかと考えます。そういう形で定年後の方の活用ということも考えるといいのではないかと思います。

【座長】

確かに、専門的知識を持っておられる上に、まだ体力もあるので、何もされていないのはもったいないと思います。活用の仕方によっては、教育の質の向上ともリンクできる可能性もあります。

【委員】

練馬区はベッドタウン化していることもあり、企業に勤めていてリタイアされた方は大勢いらっしゃると思います。また、今後ますます高齢者人口が増えることが予想されることから、そのような方たちをどう引き込むか考えられたらと思います。

【委員】

そういう方たちに、土曜講習などに来ていただいて、仕事の話などをしていただくといいと思います。

【委員】

そういう方は、何かをやりたいとは思っておられても、何をすればいいのかが分からないのだと思います。ですから、情報発信や周知をすれば、参加していただける方は多いのではないかと思います。

【委員】

私は練馬区のいくつかの委員会に出ていますが、顔触れが大体同じなのです。光が丘の高齢者センターでは、60歳以上の方が2,200人も登録され、毎日280人が来て、碁、将棋、マージャン等をやっておられます。その方たちが地域活動に参加する方法はないものかと、いつも考えています。

【委員】

先ほど、家庭の教育力が落ちているという話がありましたが、アンケート結果の25ページでは、当事者は、家庭教育はある程度以上機能していると思っているという結果になっています。本人たちが、低下しているとは認識していないのに、それを強化するというのは、非常に難しいのではないかと、これを見て感じました。

また、このアンケートの回収率は、小学生の保護者が72.8%、中学校の保護者が74.8%ということで、未回答の25%くらいの人の中に課題を抱えている人が多くおら



れるという可能性もあると思います。その辺りも考慮しながら検討していかなければならないと思いました。

**【座長】**

今日頂いたご意見を踏まえて、次回までにこれを整理し直したいと思います。そして、次回は具体的な話を重点的に行いたいと考えています。

2番の家庭と地域に関しては、本日、かなりご意見を頂きましたが、1番と3番については、ほかにご意見はありませんか。

**【委員】**

1番の教育の質の向上について、確かに、教師の研修も大事だと思いますが、学校内における先生同士のコミュニケーションが、同じ学年同士などの横の連携はとれているけれども、縦の連携がとれていないという話をよく聞きます。先輩にアドバイスをもらうとか、先輩の教材を参考にするなど、縦のコミュニケーションには様々なメリットがあると思いますので、是非縦の連携もとるべきだと思います。

**【委員】**

教師間の縦の連携については、時間がない中で工夫して、OJTの実施をはじめ、ベテランの先生が若手を指導するような取組を、いろいろな方法で行っています。今、若手が非常に増えていますので、現場としても危機感を持っており、そのような取組にはかなり力を入れているところです。

**【委員】**

一般的には、教員が高齢化して、若手が少ないと聞いていますが、練馬区では若手が多いのですか。

**【委員】**

東京都の小学校は、最近は若い先生が急増しています。今後、中学もそうなるのではないかと思います。そのため、小学校では、若い教員の研修時間の確保が大きな問題となっています。

**【座長】**

教師の指導力については、校内でどれだけしっかりと研修や研究ができるかが課題だと思います。今、練馬区内の小中学校で、対外的に研究発表などを行っている学校はどのくらいあるのですか。

**【教育指導課長】**

現在、練馬区には幼稚園を含めて 104 校ありますが、そのうち、年間 15 校くらいは発表をしています。

**【座長】**

その数は、充実しているほうなのですか。

**【教育指導課長】**

練馬区は非常に積極的にやっていると思います。

**【座長】**

一層充実させるにはどうしたらいいでしょうか。具体的な施策を考えるにあたっては、後退させずにそこを充実させるということを考えなければならないと思います。例えば、研究しやすい環境をつくるのが、予算の面を含めて具体的に考えられます。教師がきちんと取り組んでいることを地域や保護者に見てもらう機会がなかなかない。その 1 つの方法が公開授業だとは思いますが、それも、当初は意味があったものの、現在では公開していても見に来る人は少ない状態で、教師の負担になっているところもあるようです。

**【委員】**

実情はそのとおりです。1 週間程公開していても、見に来る保護者は非常に少ないです。

**【座長】**

公開期間を短くするなど、始めた頃の制度の意義と今の状態と学校の多忙から総合的に考えて検討し直す必要があると思います。

**【委員】**

練馬区では、公開は 1 週間も行っていない。今後、月 1 回の土曜授業を参観自由という形にして公開するようになるということで、練馬区は相当、改革を進めていただいていると思います。研修についても、夏休みの短縮がなくなることに伴い、以前より時間を確保できるようになっています。

単学級の小規模校では、教員は見て学ぶことが多いが、若い人とベテランを組み合わせるというような形が取れないことが課題となっています。その場合は、学校同士のネットワーク等が必要になってくると思うのですが、それをコーディネートする時間がないということが、今の大きな問題となっています。

【座長】

ほかにご意見はありませんか。

【委員】

教師の熱意が、逆に、保護者の方の甘えを生んでしまっているということはないですか。今の教師を見ていると、いろいろなことを求められて、それを全てかなえようとしているように感じるのです。例えば、生徒が万引きをしたりすると、教師が夜遅くても警察署に迎えに行くということもあると聞きます。そして、教師が1人の生徒に対して時間をかけて指導をする姿を見たほかの保護者が、自分の子供に対しても同様に時間をかけてもらって当然だと考えたり、家庭ではきちんと教育しているのに学校が時間をかけて教育してくれないと考えるような、悪い連鎖を生んでしまうというケースもあるように思います。

【副座長】

家庭の状態にもよると思います。万引きした子供を引き取りに行くのは親の役目だとは思いますが、親が仕事で不在であったりとか、親に行く気が全くない場合など、先生が行かざるを得ない状況というのもあるのです。しかし、確かにご指摘のとおり、全体のバランスを欠いており、教師がますます忙しくなっているというのは事実だと思います。

【座長】

ほかにご意見はありませんか。

【委員】

前回、話したことについては一通り入っていますので、これでよろしいかと思いますが、来年度からは、子ども家庭支援センターが教育委員会に入ることによって、支援センターは、基本的な視点3のいじめや不登校にもかかわっていることで、その役割を教育委員会としてどの程度重点を置いてくれるかに注視しています。現状では人的にも機能的にも不十分なところがあるので、より充実することを期待しています。ただ、子供に関することが全て子ども家庭支援センターに行くことになると、子ども家庭支援センターの負担が非常に大きくなってしまいますので、その辺も考慮しながら、重点施策に入れていただきたいと思っています。

【委員】

先ほど議論した、基本的な視点1の については、「社会の一員としての自覚を持

つ」という表現にしてはいかがでしょうか。

また、基本的な視点3の に、学校図書館と地域の図書館間をオンライン化して、相互に利用できるようにするという事を入れていただければと思います。学校図書館の図書というのは所蔵数が限られているので、それが実現すれば、大変使いやすくなって、子供たちの活字離れへの対策にもなるのではないかと思います。特に小学生は、パソコンよりも本を使って実際に調べて学んでいくべきだと考えます。

**【座長】**

本を読まない子は言葉を覚えなため、書けないし、考えられません。そういう意味でも、図書館はオンライン化も含め、もっと充実させてほしいと私も思います。

**【委員】**

図書館の充実には、司書とお金も必要です。本は高価ですので、少ない予算では本当に少ししか買えません。そして、本は消耗品であり、子供はきれいな本を好みます。そのような視点も大切にしていきたいと思います。

**【座長】**

本日頂いた意見の中で、重点施策として入れられそうなものについては、入れて整理をしてみたいと思います。また、ほかに施策等についてのご意見等があれば、次回までに頂ければありがたく思います。

**(5) その他**

**【事務局】**

今回は、12月22日(木曜日)の18時30分からこの会議室で開催いたします。次回におおむね懇談会としての意見をまとめていただく予定ですが、場合によっては、懇談会からの答申を受けて、年明けにもう一回お願いするかもしれませんので、その際はよろしく願いいたします。

**【座長】**

以上で、第4回練馬区教育振興基本計画懇談会を終了いたします。本日は、どうもありがとうございました。

(終了)